

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人 社団 昭和会		
事業所名	グループホーム むつみ苑(梅ユニット)		
所在地	荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	令和6年8月30日	評価結果市町村受理日	令和6年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西に有明海、東に小岱山と自然環境に恵まれた地域にあるむつみ苑です。母体施設が整形外科であり、入居者のリハビリにも力を入れている。また、急変時や体調不良時にもすぐに対応が出来るため入居者や家族に安心していただいている。コロナ禍で行事が思うようにできないがユニットごとで誕生会を行い、施設内での生活を楽しんでいただけるように取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の生活をより良く過ごしてもらいたいとして、先を見越したケアに職員の観察する力や入居者一人ひとりに寄り添うことをケア基本として、最高齢102歳という高齢化傾向の中を、法人のバックアップ(PT等)により現状維持に努力するホームである。入居者の入れ替わりの進んだユニット、活気あるユニット等と違いもあるが、入居者の主体性ある日常に人や社会との繋がりがりやこだわり等をリサーチし、個々の望む生活を支援している。例えば、晩酌の継続や部屋で自由に過ごす入居者に表れ、役割ある生活が職員との会話の場として生かされている。また、身体拘束適正化委員会では専門職として精査・意見交換により拘束の無いケアを徹底している。誕生会など外出がままならない状況にホームで出来る楽しみ事を提供し、日常の生活の延長として看取りがあるとして、医療と看護・看護が一体となって入居者を支援するホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を施設内に掲示し、申し送り時に職員間で確認し共通理解を図り、実践につなげている。	入居者の望む暮らしについての支援について試行錯誤する等理念を想起させながら月初めや勉強会で振り返る機会を作っている。102歳であっても歩行器での移動や歌が出る等高齢化傾向や重度化及び感染症や暑さ等の対策を徹底し、室内で出来ることで関わりを深めている。職員体制にほとんど変動も無く、理念をケアの原点として真摯にケアに取り組むホームである。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の生活の中で地域の方と関わる機会を作り、地域の中で暮らしているという実感を持ていただいている。	地域へは積極的な関わりは感染症により今のところ少ないが、受診に出かけると近隣住民や知り合い等との歓談や声を掛けられる状況にある。歌や踊り等のボランティア訪問時には同法人のデイサービス利用者等との交流等が行われている。	小学校で開催される地域の文化祭には参加が予定されており、地域へ出る機会として生かされることと期待される。運営推進会議でリサーチした地域の行事に入居者が参加できるよう全員で検討される事を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで時折、地域の中にいる認知症の方の情報交換等を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して入居者の暮らしぶりを伝え、入居者や家族の困りごと等を相談し助言を頂いている。	定期的開催する運営推進会議は市役所・区長・院長・苑長やホーム長が一堂に会して開催している。ホームから2ヵ月間の報告や、区長からの地域イベントが発信が地域との交流の一環として生かされている。入居者の生活状況や身体拘束適正化委員会からの報告及び外部評価結果を報告する機会としている。	運営推進会議に入居者時々参加されており、認知症ケア啓発の一環として生かされているものと思われる。家族の参加など参加メンバーを検討いただき、ホームの課題について検討する機会とされることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業所のケアの実際や課題について理解していただいている。	集団指導への参加や権利擁護・成年後見等話し合いを重ねる等行政や社協等と連携しながら入居者を支えている。生活保護関係では面会や調査訪問時等に情報交換を行っている。また、行政に、転倒や転落の危険性のある入居者の事案を相談する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や掲示物を通して職員一人ひとりの理解を図っている、また、実際のケアに身体拘束になりうる行為がないかを確認している。	法人全体の主任会議で専門職として検討及び意見交換を行い、代替策の検討により拘束をしないケアを実践している。職員の声かけでは相手がどう受け止めるか、受け取り側がどうであるか等考えることとして、親しみのある声かけを徹底している。スタッフルームに気を付ける事を掲示し日々確認すること及びパーソンセンタードケアについての勉強会の開催により全員が意識を共有している。	身体拘束等の適正化を図るための指針の掲示、及び拘束をしない事業所としての宣言書等を掲示されることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して高齢者虐待の理解を図っている。また、職員の言動や入居者の反応に配慮し、職員間で確認し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で学ぶ機会をもち、必要に応じて話し合い活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時やその都度入居者や家族の不安や疑問を聴取し、説明を行い理解と納得を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個人面談や家族との電話等でのやり取りで受けた意見や要望を管理者との協議を踏まえ運営に反映させている。	家族の訪問時時に要望等を聞き取りしている。入居者に必要な物品等を家族に相談し、入居者の希望が叶うよう検討している。家族からは苦情はないものの、面会制限に対する要望等が上がっており、その都度状況を説明している。感染症により長年開催してきた家族会を中止せざるを得ない状況にあり、便りで状況を発信する体制としている他、何かあればホームから随時連絡を散るなど家族との相互連絡につとめる等家族との良好な関係を築いている。	誕生会では手作りケーキでのお祝いが入居者の笑顔を引き出している。このような行事に家族にも参加を依頼する等家族会に代わるものを検討されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で運営に関する職員の意見を聞き、管理者と職員の協議で運営に反映できるように図っている。	職員は出勤時に申し送りノートや個人記録に目を通してケアに入ることとしている。ユニットにより入居者の状況の違いもあるがノートに記録することで職員の気づきや観察力を発揮する機会や情報の共有化に繋げている。業務や課題等についてミーティングを行い、勤務体制については平等性を重視し、有給の取り方を職員からの意見をもとに話し合う他、3ユニットでお互いに協力しあっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員一人ひとりの勤務状況の共有に努め、職員それぞれの個性に適した就業環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力を把握し、本人と協議しながら研修への参加や資格取得への働きかけを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際にはそこで得た情報を職員間で共有できるように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は特に本人が困っていること等の情報を集めて不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で本人や家族の抱える困りごとや不安や心配な事を聞き取り希望に沿えるように良い関係がきずけるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人及び家族にとってどのようなサービスが必要なのか見極め、様々なサービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を通して入居者の生活の在り方を尊重しそこから学ぶことを大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の生活を報告し、本人のケアにおいて家族の支援が得られないかを必要に応じて相談し、共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で自由に面会や外出が出来ないが、馴染みの床屋さんを訪問理容で利用する等できる限りで馴染みの関係とのつながりを大切にしている。	墓参や自宅の様子を見に帰る方、法事への参列や家族の支援により入院先(身内)にお見舞いに出かける入居者、馴染みの床屋の利用(同行支援の活用)、入居しても寝る前の晩酌や携帯電話で外部と連絡を取り合う等昔から良く知る人等との繋がりが途切れない様支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性に合わせて、食卓やソファの場所を調整し、関係が築けるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もこれまでの関係性を大切に必要に応じて本人や家族の相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの希望や意向の把握に努め、困難な場合は本人本位に検討している。	入居者の中には会話が難しい方や返事が無い等も職員が声かけのタイミング等を鑑みながらこまめに話しかける等個々の個性として受け止めている。自己表現が上手く出来ないだけとして、耳の聞こえが悪い方には耳元で大きな声で話しかけている。朝からの院長による訪問時の様子を手がかりとしたり、PT訪問等様々な人の関わりや、特には職員が選択肢を投げかけ自己決定の場を作っている。入居者同士の会話の中からも思いを推察し職員同士で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、関係者との情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックを行い、レクリエーションへの参加を促すことによって心身の状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間や医療チームとの連携を図り必要に応じて家族とも連携を取る介護計画を作成している。	職員との意見交換や、モニタリングにより変更の可否を見極めている。入居者の希望や、やりたいこと等を基本に置き、自由に過したいとする入居者本人の希望に応じたプランとしている。部屋の生活を中心とした入居者には役割としての場(洗濯物たたみ等)を作ること職員との会話の時間としている。法人のPTとの連携(訪問時の体重測定による栄養補助食品の利用の提案)等法人の持つ人的環境もプラン作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用して、見落としの無いように目を通した際にはサインを行い職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって個々のニーズに応じることが出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネットを活用して地域資源の情報を得ている。コロナ禍であまり活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の状況に応じて通院や送迎等の支援を行っている。また、通院時の情報を家族と共有するように努めている。	母体医療機関による週1回の訪問診療としているが、担当医が入居者とのコミュニケーションを兼ね状態チェックに毎日ホームを訪れており、職員が夜間帯の状況などを報告している。家族へは服薬の変更や体調、体重の変動などを報告し、体重測定時には母体の理学療法士に立ち合いを依頼するなど他部署からの協力も入居者支援の一助となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職への定時の報告と訪問診療時の看護職への情報の提供で入居者一人ひとりの状況の把握と共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体施設への入院加療においてはリハビリ時や診察、定期健診において顔なじみの関係が築かれ、安心して受けられている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や面談時に十分な説明を行い、本人・家族の意向に沿ったケアが出来るように取り組んでいる。	家族とは入居の際に“ホームでの暮らし方”について話し合い、本人なりの生活を築いてもらいながらできる事は自身でしてもらい、不足の部分を補うように伝えている。看取りも生活の延長上にあるとして本人・家族の希望を聞き取り、日常的に医療行為が必要となれば母体や他の医療機関への移行となっているが、ホームで出来得るギリギリまでを支援するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応を共有し、看護職と連携し応急手当や初期対応が出来るように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応や避難経路を掲示し、いつでも対応できるように工夫している。	本年度は5月に火災訓練を実施し、12月に消防署立ち合いのもと消火器を使った総合訓練を予定している。内海に面したホームでは台風を見越した事前準備に力を入れており、母体厨房に備品及び食備蓄を用意して有事に備えている。 Consent 周りは日々の掃除の際に確認し、緊急連絡網を使った連絡体制の確認などが実施されている。	4月には「介護事業者におけるBCPとは」をテーマとして研修を実施し、職員の意識向上を図っている。今後も定期的な机上訓練が期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活歴を把握し、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。	職員は入居者に馴染みのある方言を会話の中に盛り込みながら、わかりやすい表現を心掛けています。呼称は苗字や下の名前で対応しているが、入居者同士はそれぞれが互いの呼び方で会話しており、ホーム内の馴染みの関係性が窺える。入浴時の男性介助への抵抗や一人でゆっくり入りたい方など、個別の要望にはできる限り応じ、朝夕の更衣により生活のメリハリと衛生管理に心を配るようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入居者一人ひとりの自己決定が出来るような働きかけを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のペースで日々の生活を送れるように声掛けや関わりに配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの好みを把握し、本人が身だしなみやおしゃれを楽しめるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の好みを知り、食事が楽しめるような工夫を取り入れている。	業者からの配達食材や地域商店から購入した食材の他、畑の野菜を活用しながら手作りの食事を提供している。人員体制を見てゆとりのあるユニットが全体の食材を買い出しに出ており、同じ食材でもユニットで入居者の好みや状態を見ながら調理している。毎食に汁物を付けて喉越しに考慮し、食前の挨拶やねぎなどの下処理、テーブル拭きなど入居者も食への関わりが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の習慣を把握し、食事量や栄養バランス、水分が十分に摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの口腔内の把握に努め、毎食後それぞれの方法で口腔ケアが出来るように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできるだけトイレを利用した排泄介助に努めている。また、声掛けもここに合わせて行うようにしている。	個々の排泄パターンや希望を尊重しながら職員が連携した支援に努めている。昼間はトイレでの排泄を基本とし、夜間もトイレ誘導やポータブルトイレの使用、失禁が見られるようになっても布パンツ使用をハッキリ希望される方もおられる。また、100歳を過ぎても夜間のポータブルトイレの使用など個別支援への取組が聞き取りからも確認された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに食物繊維の多いものを取り入れ、水分摂取や運動の重要性を声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を考慮したうえで本人の希望に沿った入浴を行っている。	週2～3回の入浴を支援しているが、それ以上の回数入る方もおられるようである。職員は一人ひとりの入浴への好みを把握し対応しており、現在、拒否される方はなく必要な支援を受けながら、職員と1対1の時間を楽しまれている。またぎが困難になったり、重度化など本人の負担になる場合は、シャワー浴での清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を取り入れ、個々の体調や体力に合わせて休息をとりいれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往や症状、内服の把握に努め、症状の変化の有無を観察し、医療機関との情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた役割をもち達成感を味わっていただき、生活の張り合いが出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において外出を楽しむことが困難なので、季節の花を飾ったり楽しめるように工夫している。	入居者自ら外出の希望を出される方は少なく、隣接する母体医院へのリハビリ通院や菜園を眺めるなどが一つの機会となっている。今夏は厳しい暑さであり、日陰を歩くことや帰苑後の水分補給を申し合わせている。法事や家族の入院先への面会など家族の協力を得た外出や、同行サービスを利用し自宅の様子を見に帰ったり、墓参や散髪に外出される方もおられる。まだ以前のような季節に応じた外出支援は難しい状況であるが、春の桜見物は生憎の雨天となり、花見弁当を開き季節を楽しまれたようである。	11月には地域の行事(文化祭)に可能な入居者の外出が予定されている。このところ過ごしやすい季節は短い、ベランダなども活かしながら入居者が外気に触れる機会を支援されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向のもと、職員が一人ひとりの希望に沿って、買い物の代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用されている方もいる。また、希望があれば職員が手助けをして電話を掛けられる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは自宅のリビングのように落ち着いて過ごせるよう、家具の配置や装飾を工夫している。温かく感じられるように木材の家具を使用している。	入居者にとって馴染みの花の名(桜・桃・梅)が付いた各ユニットは、それぞれの空間を生かしながら、居心地よく過ごせる環境に努めている。職員の入れ替わりも殆どなく馴染みの職員による日々のケアも居心地の良さに繋がっている。室温や明るさをはじめ、テレビの番組なども入居者の状態によって設定している。この夏は猛暑の為散歩中に摘んだ草花を持ち帰る機会も少なかったようであり、職員が自宅で咲いた花を持ち寄りリビングなどに飾る工夫が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがゆったり過ごせるように広々とした空間の中にソファを配置している。入居者同士や職員と会話を楽しんだり、自由に行き来できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向に沿って、家具類の持ち込みや写真等の掲示を行って、本人が安心できる居室作りに努めている。	本人にとって安心して過ごせる居室となるよう馴染みや必要な品の持ち込みを依頼しており、日用品や小物をはじめ、洋服ダンスやテレビ、ラジオの他、扇風機が置かれた部屋も見られた。中には本人が好きな動物(猫)の写真が付いたカレンダーが貼られた部屋や位牌の持ち込み朝から手を合わせられている。居室内の掃除は毎朝職員が換気と併せ取り組んでいる。	コロナ感染症の完全な終息には至っておらず、家族がゆっくり居室で面会したり居室内の確認を行うことができない現状である。引き続き家族の気になる点など個々に応じて聞き取り対応していくことで安心に繋がっていかれる事を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安産に移動できるように手すりを設置し、カレンダーや時計を目につくところに設置することで入居者の自立した生活を促している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400576
法人名	医療法人 社団 昭和会
事業所名	グループホーム むつみ苑(桃ユニット)
所在地	荒尾市荒尾317-1
自己評価作成日	令和6年8月30日
評価結果市町村受理日	令和6年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体施設が整形外科なので医療と連携を図りながら通院・訪問リハビリに力を入れており、PT指導のもと個別なケアを行っている。また、ベランダが長くつながっておりコロナ禍でも気兼ねなく散歩ができ、ユニット内の共有空間も広いので十分な活動の場を持てる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は事業所の理念を踏まえたうえで、サービスの意義を共有し、入居者のよりよい生活の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と挨拶を交わしたり、常に話しやすい状況を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方にも参加して頂いている。その中で伝えることが出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者や家族に意見を求め、サービスにつなげられるように協議し、実践につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題が生じた時は担当の職員と連絡を取り、相談できる関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯の時間以外は玄関の施錠はせずに入居者や訪問者が自由に出入りできるようにしている。離苑等の事故が起きないように見守りに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	表情や発語に注意しいやな思いをされていないか気を配っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて外部機関と連携を取り、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定の際には対面にて十分な説明を行い、理解と納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議と家族会の実施で運営状況の発信と共に意見・要望の反映に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署ごとに意見をまとめ主任会議の場で協議したりアンケート形式での聞き取りに取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や状況は管理者に報告相談し職場環境の整備につなげられるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加斡旋や資格取得のための通学・休暇等個々に合わせて対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で直接的な交流は難しいが、オンライン研修等を通して交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では十分に入居者の生活と気持ちに寄り添えるように声掛け見守りを行い不安なく過ごしていただけるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活歴、病歴、家族との関係をよく聞いたうえで家族の思いにも応えられるようにサービスを導入し経過の報告にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員だけでなく母体の医療従事者やケアマネ等と情報の共有を図り連携を取ることで本人に必要なサービスの支援を提供できる体制を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自立心を損なうことの無いように助け合いながら共に生活するというスタイルで過ごしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場に立ったり、本人の立場に立ちながらお互いの良好な関係を崩さないように支援することを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れないように電話や手紙などの支援やテレビ電話の活用などケースに応じた支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	視覚や聴覚の感覚が低下してきている方でも衣・食を共にすることで互いに理解を深め、洗濯物をたたむ等の作業を通して関わりや支え合いが生まれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの申し出があれば相談を受け、解決できるような支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	苑での生活の中で混乱したり、自分がどうしたらいいのかわからず不安を抱えている方がいらっしやるので寄り添いながら本人の意向を確認し沿うようなケアに努めている。困難な事例は申し送り等で検討し、試行錯誤している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしぶりについては関係者等の情報をもとに個人ファイルを作成している。また、関わりながら本人から聞かれた情報も職員で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で入居者一人ひとりの状態の把握に努めている。状態が少しでも変化した時は職員間で共有しケアの方法も含めて話し合う機会をもつように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや生活状況に沿ったケアができるように関係者との連携を取り現状に即した計画を作成できるようにケアマネとの情報の共有に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有やケアの検討等で職員間で話し合う機会が多いが記録に残していないため、記録がケアの実践に活かされている軌跡が少ないことが課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍によって入居者の生活に様々な制限があるものの本人のニーズに対してはすぐに対応できるように職員間で話し合い、管理者に相談して実行している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において外部との接触は難しいが、知人や友人からのこと付けや差し入れ等は受付、本人へ渡し、関係が途切れることの無いようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り、小さな変化でも相談し、必要に応じて受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変や普段との差異があれば常時看護師へ報告できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるように環境や症状への対応の体制を整えている。退院後も安心して生活できるように医療職との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ミーティングの際に各ユニットの入居者の情報を共有し、予測される変化とその対応について協議し、ユニット間でも協力体制を取りながら重度化におけるケアの充実に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に設備の点検や訓練を実施している。スタッフルームに分かりやすい掲示をし、誰でも実践できるよう工夫をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフルームに掲示してあるものを毎日確認し、避難できるように身につけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、特に食事・排泄・更衣などプライバシーに配慮した介助・声掛けに努めている。難聴の方にも大きな声で周囲の方に不快感を与えないように会話の場所に気をつけたり筆談等で対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナ禍において外出や面会が自由にできない日々の生活の中で思いの活動ができるように声掛けし促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気分や体調に合わせて通院や散歩などを調整して声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のモーニングケアはもちろん化粧をされる方や衣類に拘りのあらわれる方等、TPOに合わせた身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いやアレルギー等を把握して彩りや季節の食材の活用にも工夫して楽しく食事をしていただけるように心掛けている。また、盛り付けや野菜の仕分けなど手伝っていただき食に関心を持っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの体格、体質、活動量、病状等総合的な判断から一人ひとりに適した食事量や水分量の提供に努めている。形態を工夫したり補助ドリンクの活用もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ひとりに合わせて口腔ケアを促し、義歯の方は就寝時に洗浄剤に浸し拒否のある方にはタイミングを見て促し、実施できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた介助や対応を心掛けているが、本人の認識と職員の対応のズレがあり、うまく支援できていない部分もある。また、オムツの使用を開始するときは本人の思いを大切に実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や腹部マッサージを促している。また、ヤクルトやヨーグルトをおやつの際に提供するようにしている。入居者によっては家族よりさつまいもを差し入れていただき取られている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やバイタル、本人のリハビリ等の予定を考慮し入浴を促している。本人の気分に合わせて入浴できるように心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時は室温や姿勢に配慮し心地よい環境で就寝していただいている。また、「あとで来ますね。」「朝は起こしに来ますよ。」と声をかけ、安心していただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無いように注意を払いながら、一人ひとりの内服の把握に努め、状態の観察にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った手伝いを依頼するようにしている。洗濯物など置いておくことと自然に手を伸ばされ、たたんでいただくこともある。数人は歌を口ずさみながら過ごされることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、自由に外出ができないが、通院やリハビリ、散歩や他ユニットへの面会をされている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力や家族の意向、本人の意思も尊重しながら所持して使うことができる機会を支援している。本人からの依頼があれば、職員が代行して希望のものを購入してくることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族等の希望があれば電話を使用し話す機会を支援している。職員が間に入り誰とどのような話をしているかが分かるように支援することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはそれぞれがその時に座りたい場所で過ごしていただくようにしている。テレビとソファの位置を調整し、テレビを楽しめる方や人の存在を感じられたい方などそれぞれの希望を尊重した空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広々としたリビングの中で食卓とソファを配置しているので一人ひとりがその時過ごしたい場所で過ごしゆったりとくつろぐこともできるような環境になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には普段から使用しているものものもちこみやこだわりの生活が継続できるような家具の配置に努めている。また、できるだけ、居室の中での生活が自立できるような部屋づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内には手すりを設置することで安全に移動し生活することができるような環境になっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人 社団 昭和会		
事業所名	グループホーム むつみ苑(桜ユニット)		
所在地	荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	令和6年8月30日	評価結果市町村受理日	令和6年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

荒尾干潟を一望でき自然に囲まれた環境で入居者一人ひとりが自然体で過ごせるようにスタッフ全体で心掛けています。また、緊急時や体調の変化がある時には母体施設と連携することで安心した生活の継続を図っています。入居者一人ひとりの生活スタイルを重視することでターミナル期においても本人主体の暮らしの実現を図り、気心知れた職員や他の入居者に囲まれることで心身の安定につながっています。職員も一人ひとりの希望する勤務スタイルにできるだけ合わせた勤務を実現することで働きやすさの実践に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念を共有し、自分たちの目指すべきケアについて意見交換を行いながらケアを実践している。入居者の状態が変わった時は理念をもとにケアの在り方を検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍によりボランティアなどとの交流をする機会は減ってしまったが状況に応じて面会を行い交流する機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーや家族等へ入居者の暮らしぶりについて伝えと同時に認知症の方々が生き生きと暮らす支援について理解していただけるようにも伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域でも認知症の方を支援していくために、地域と事業所での情報の共有を図る機会になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導や運営推進会議等で市の担当者との連携を図っている。また、介護保険課に限らず各部署と連絡を取り合い、入居者の生活を支援している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して職員が身体拘束について理解し、入居者一人ひとりが自由に動けるような環境づくりと職員のケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学ぶ機会を作り、日々のケアの中でも入居者にとってどうなのか？考え、職員間で検討するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会等に参加し、必要とする方には活用できるように、本人、家族、職員で検討するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約の締結を行い、ケアの内容についての説明を行っている。その際疑問や本人の生活についての意見交換や家族の協力等も確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や荷物持参時、電話でも気軽に意見を言っていたるように心掛けている。適当な意見は上司と相談し運営に活かせるように図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員と上司で意見交換を行っている。コロナ禍において職員で集まることは難しくなっているが、職員が意見を言いやすいように心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きぶりや意欲等を把握できるように努めている。また、職員からの希望があれば勤務形態についてもできるだけ調整できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が成長できるように内部異動を実施し、育成に努めている。職員それぞれでも資格の取得や研修会への参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際には互いの事業所の現状等の情報交換を行い、適当な情報があればサービスに活かすようにしている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはそれまでの生活状況の把握に努め、本人のニーズを抽出するように努め、時間をかけて関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に本人のケアについて家族と協議し、家族の思いを理解したうえで、本人の心身の状況について家族と共通の理解が図れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現状の暮らしの把握に努め、家族の暮らしや本人との関係性を理解し、介護保険やその他のサービスについて情報を提供するとともに家族や本人が苑に望むことの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの能力や素質を見極めていろいろな役割を担っていただくように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が協力できることを家族に相談し依頼することで共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は難しいが、暮らしていた地域のことや季節の行事、地域の食べ物等、馴染みのある話をする事で関係が継続できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話を楽しむばかりでなく、利用者の存在が利用者を支える関係にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に声を掛け合い、相談しやすい関係づくりに配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや嗜好など、入居者に関する情報は職員間で共有できるように努め、本人の望む暮らしの実現を支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人と家族、関係者からの情報をもとに本人の暮らしぶりを把握し、可能な限りそれが継続できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身の状態把握に努め、一日の生活を見直している。その中でも本人の望む環境の中に身を置くことができるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意思や家族の希望、本人の生活状況から見越した経過を踏まえ、本人のニーズを苑での生活状況の中で満たしていけるような介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には、本人の言動が分かるような記録のあり方に努め、職員での情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が希望され、応じることができる範囲で柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人ひとりのこれまでの生活を把握することで本人のこれまでの暮らしに関わってきた地域資源を知り、苑での生活でもそれを感じられるように会話をしたり、取り入れたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週の訪問診療時に限らず医師との情報交換を図り入居者一人ひとりの健康的な生活や体調変化への迅速な対応を心掛けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療機関の看護師との情報の共有を図り、職員が気になっていること等を気軽に相談できる関係を築き、入居者の生活を共に支えている。また、管理者や看護職員との連携を図ることによって必要な看護を入居者が受けることができる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療従事者との情報交換を図り、安心して治療を受けられることと、生活機能の維持を図れるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期もそれまでの苑での生活を継続できるように本人の生活を主体に捉え必要な医療や看護などを組み込んでいく。また、本人や家族の望む最期を迎えられるように状態の共有を図り、協議を重ねるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会で急変時の対応を身につけることや、入居者一人ひとりの状態から起こりうる状況について職員間で共有するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施し、災害時の対応や避難経路、役割について掲示しいつでも対応できるように備えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格や生活歴、習慣を把握しプライバシーを尊重した対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入居者の思いや希望に寄りそい様々な選択や自己決定ができるように関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを尊重し、思い思いに過ごして頂き、集団と個別での生活にメリハリがつくように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれ等、こだわりのある方には続けていただけるようにし、入居者それぞれの自己表現ができるような関わりに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者がたずさわることができる機会を作ったり、畑で作られた野菜を使うことで食材に馴染みを持っていただくようにしている。日ごとに挨拶を当番制にし、たずさわることを実感して頂く。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取量の把握に努めるだけでなく、心身の状態や病態の把握に努め、それぞれの適切な量を見極め、補助飲料等を使用しながら調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりに適した口腔ケアを行っている。口腔内の状態によっては歯科と連携して口腔の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンとそれぞれに適した介助方法に心がけている。日中はできるだけトイレで排泄できるように本人の意思を確認しながら必要に応じて2人での介助でも対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分の摂取量を把握し、本人の生活習慣を把握したうえで適度な運動ができるように促している。必要に応じて本人の生活への影響が少ない下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの好む入浴を把握し、職員で情報の共有に努めている。入浴時には個別ケアにあたり安心して入浴できるようにまた、一人ひとりと深く関わることで満足感を得られるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の環境や寝具類の調節を行い安眠できるように配慮している。眠れない方にも安心して過ごして頂けるように関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの現病と持ってる症状を把握し服薬の内容も理解するように努めている。内服の変更があればいつも以上に本人の状態観察に気を配るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を好まれる方やスポーツ観戦、会話などそれぞれの楽しみを日々たずさわることができるように心がけている。入居者の笑顔が引き出せるような関わりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿った外出は難しいが、散歩やリハビリなど本人の希望や気分に合わせて取り組んでいただけるように心がけている。また、外出できるように歩行運動などに取り組んでいただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の意向に沿ってお金を所持して頂いている。自由に買い物等に行くことができないため、本人の希望されるものを代わりに購入したり、家族に依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由に使用されている。また、その際の必要な支援も行っている。そのほかの方も希望があれば取り次いだり、代わりに要件を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は掃除や整理整頓を毎日行い気持ちよく過ごして頂けるように努めている。室温や明るさ等一人ひとりでの感じ方が異なることは、掛物や場所を調整して心地よく過ごして頂けるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し一人ひとりの好まれる場所で過ごして頂いている。入居者同士で会話をしたり、横になって過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の同意のもと馴染みの家具や日用品や装飾を自宅より持参して頂いて居心地の良い空間づくりを行っている。壁には苑での写真や誕生日プレゼントの飾りを飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの能力を理解して個々に合った支援を行っている。トイレの目印や手すり、それぞれに適した補助具を使用し安全に、安心して生活できるように努めている。		